

2027 年卒

就職活動実態白書

旧帝早慶層 12 大学の就活開始、志望形成、価値観、企業選択基準から、採用市場の現在地を読み解く

対象	2027 年卒予定の学生・大学院生
対象大学	東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、東北大学、名古屋大学、九州大学、早稲田大学、慶應義塾大学、一橋大学、東京科学大学、神戸大学
調査時点	夏、秋冬、春の 3 時点
発行	株式会社リーディングマーク
制作・分析	株式会社リーディングマーク 組織心理研究所 https://oprl.mikiwame.com/

本白書では、上記 12 大学の回答者を便宜上、旧帝早慶層 12 大学と表記します。

はじめに

新卒採用市場では、企業と学生の接点が早まり、就職活動の進み方も一様ではなくなっています。夏のインターンシップ、秋冬の選考接点、春の本選考という区切りは残っているものの、学生がいつ企業を知り、いつ比較候補に入れ、いつ第一志望に近づけていくのかは、企業側から見えにくくなっています。

早く動き始めた学生が、必ずしも早く意思決定を終えるとは限りません。反対に、就職活動の開始が相対的に遅い学生であっても、学生本人の状態を直接示すものではありません。選考時期の遅い業界を待つ学生、研究や学業との兼ね合いで動き出しが遅れる学生、比較軸をまだ整理している学生もいます。採用広報を考えるうえでは、単に早いか遅いかではなく、学生がどの段階で何を比較しているのかを見る必要があります。

本白書は、ミキワメ就活で実施した 2027 年卒向け調査をもとに、旧帝早慶層 12 大学の就職活動の実態を整理したものです。扱うテーマは、就活開始時期、夏インターンシップ、志望企業群、内定状況、キャリアゴール、30 歳時期待年収、企業選択基準、検討業界、志望業界です。

本白書の目的は、企業ランキングを示すことではありません。学生がどのように企業を知り、どの段階で候補を絞り込み、何を基準に企業を選ぼうとしているのかを、調査データから読み解くことにあります。人事・採用担当者にとっては、採用広報や選考接点の設計を見直す材料として、大学就職課にとっては、学生の意思決定を支援するうえでの参考情報として活用できるよう構成しています。

本白書で扱う範囲：本白書では、旧帝早慶層 12 大学全体の傾向を中心に扱います。個別企業名、企業別ランキング、大学別ランキング、自社と競合企業の比較分析は、本編の中心には置きません。全体傾向を把握したうえで、自社やターゲット学生に絞った分析が必要になる論点は、巻末で扱います。

この白書の読み方

本白書は、最初から通読することも、関心のある章から読むこともできます。巻頭では、調査対象、調査時点、主な調査項目、集計上の注意を示します。その後、就職活動の入口、志望形成、価値観と企業選択基準、業界の見方、採用広報と学生支援への示唆という順に整理します。

<p>人事・採用担当者</p> <p>第2部と第5部を中心に読むと、企業の志望候補入り、上位候補化、第一志望化のそれぞれで、学生に提示すべき情報が異なることを確認できます。早期接点を増やすだけではなく、学生が比較候補に残す理由、本命として選ぶ理由をどう作るかが論点になります。</p>	<p>採用広報・採用企画担当者</p> <p>第3部と第4部を中心に読むと、学生がどの価値を重視し、どの業界を広く検討し、どの業界を上位候補に残しやすいかを確認できます。報酬、成長、働きやすさ、人間関係、企業イメージは、複数条件として同時に比較されます。</p>
<p>大学就職課・キャリア支援担当者</p> <p>第1部と第2部を中心に読むと、学生の就活開始時期や志望形成の進み方を把握できます。就活開始時期の早さや、志望具体化の早さが、価値観や内定率とどう関連するかをみていきます。</p>	<p>経営層・採用責任者</p> <p>巻頭、主要発見、第5部を中心に読むと、採用活動を市場データで見直す際の論点を把握できます。全体傾向だけでなく、自社・競合・ターゲット学生に絞った分析が必要になる領域を確認できます。</p>

3 時点比較を読む際の前提

本白書の3時点比較は、同じ学生を追跡したものではありません。夏、秋冬、春の各時点で得られた回答者集団を比較する反復横断調査です。そのため、時点差には、就職活動の進行による差だけでなく、各時点の回答者構成の違いも含まれます。

読み方の注意：夏から秋冬、春へと同じ学生が変化したものとして読むことはできません。本白書では、各時点の回答者に観測された傾向として比較します。

本白書の構成

本白書は、調査の全体像を示したうえで、就職活動の入口、志望形成、価値観と企業選択基準、業界の見方、採用広報と学生支援への示唆を順に扱います。主要発見では、本編の分析結果から公開時にまず押さえるべき論点を5点に集約します。

区分	主題	役割
巻頭	はじめに／この白書の読み方／調査の全体像	読者が調査対象、調査項目、集計上の注意を理解するための入口。
主要発見	5つの主要発見／データで見る主要指標	各部の分析結果から、公開時にまず押さえるべき発見と代表的な数値を整理する。
第1部	調査対象と就職活動の入口	調査回答者の概要、いつ就職活動を始めるか、夏インターンが何の入口になっているかを見る。
第2部	志望形成はどのように進むか	就職志望候補 Top20、Top5、No.1の三段階で、候補形成と第一志望化の進み方を読む。
第3部	学生は何を期待し、何を基準に企業を選ぶか	キャリアゴール、期待年収、企業選択基準40項目を組み合わせ、学生の価値観を読む。
第4部	学生はどの業界を見ているか	検討業界、志望業界、検討から志望への残りやすさを分けて扱う。
第5部	採用広報と学生支援への示唆	全体傾向から、自社・競合・ターゲット学生に絞った分析へ接続する。
付録	調査項目一覧／指標定義／集計上の注意	本白書の信頼性を支える定義と注意事項をまとめる。

主要発見

本白書の各節で扱った図表と本文から、人事・採用担当者、採用広報・採用企画担当者、大学就職課がまず押さえるべき発見を5点に整理します。ここでは、企業ランキングではなく、学生の就職活動の進行、志望形成、価値観、企業選択基準、業界の見方に焦点を当てます。

1	夏時点で、就職活動は比較検討の入口に入っている	夏調査では、4月までに就職活動を始めていた層が85.8%に達しています。夏インターンへの応募理由でも、業界研究61.9%、企業研究60.0%、職種研究33.5%が上位に入り、夏は学生が業界・企業・職種を比較するための接点として機能しています。
2	志望形成は時期を経て進む一方で、第一志望の決定時期は後ろに広がる	志望候補企業Top20未決定は夏17.1%、秋冬10.6%、春9.0%と低下し、志望候補が固まった三段階具体化型は夏78.8%、秋冬83.8%、春85.2%と上昇します。一方、志望候補企業No.1の10月以降未定は夏46.4%、秋冬59.0%、春72.1%へ上がっており、候補形成と第一志望化は分けて読む必要があります。
3	就活遅め開始層は、後の時点ほど目立ち、志望形成・内定状況にも差がある	就活6月以降開始層は夏2.9%、秋冬29.8%、春34.7%。9月以降開始層も秋冬7.7%、春14.0%です。春調査での就活6月以降開始層では、初回内定未取得70.1%、内定0社74.2%で、早め開始層を上回ります。ただし、就活開始時期は意欲や資質を直接示すものではありません。
4	学生は報酬だけでなく、複数の価値を同時に見ている	30歳時期期待年収1000万円以上の高年収希望層は、夏38.8%、秋冬44.9%、春43.9%です。企業選択基準40項目の平均選択数は、夏10.52、秋冬11.41、春10.85で、学生は報酬、仕事内容、人と文化、企業の評判とイメージを複数条件として確認しています。
5	検討業界と志望業界は一致しない	検討業界は広い比較候補、志望業界はTop5に残った上位候補を示す指標です。3時点統合では、総合商社、IT、コンサルティング・シンクタンク、食品、運輸などが広く検討されますが、Top5に残る業界の並びは異なります。就活生から広く志望候補企業と見られることと上位候補に残ることは、別の課題として扱う必要があります。

読み方の注意：3時点比較は同一個人の追跡ではなく、夏、秋冬、春の各時点の回答者集団を比較する反復横断調査です。時点差には、就職活動の進行による差と回答者構成差の両方が含まれます。

データで見る主要指標

主要発見の読み取りに使う代表的な数値を整理します。詳細な定義、分母、回答形式、集計上の注意は、本編各部と付録を確認してください。

85.8% 夏時点で4月までに就職活動を開始 第1部	34.7% 春時点の就活遅め（6月以降）開始 第1部	85.2% 春時点の志望企業三段階具体化型 第2部
72.1% 春時点でNo.1志望企業が未定 第2部	43.9% 春時点の高年収希望層 第3部	60.4% 春時点で現時点内定0社 第2部

指標の読み方

就職活動開始	4月までに開始しているか、6月以降・9月以降に開始しているかを分けて読みます。開始時期は、学生本人の意欲や資質を直接示す指標ではありません。
志望形成	Top20、Top5、No.1を分けることで、広い候補群、上位候補、第一志望に近い選好の進み方を確認します。
価値観・企業選択基準	30歳時期期待年収、キャリアゴール、企業選択基準40項目を組み合わせ、学生が何を期待し、何を比較条件としているかを読みます。
業界	検討業界と志望業界は別の指標です。広く見られる業界と、Top5に残る業界は一致しない場合があります。

読み方の注意：割合は各設問の有効回答者数を分母として算出しています。複数回答の設問では、選択率の合計が100%を超える場合があります。後述の通り、夏時点とは2025年4月19日～2025年6月23日（学部3年(学部卒) / 修士1年(修士卒) 4月～6月）、春時点とは2026年1月10日～2026年3月7日（学部3年(学部卒) / 修士1年(修士卒) 1月～3月）を指します。

調査の全体像

本白書では、ミキワメ就活で実施した 2027 年卒就活生調査のうち、夏、秋冬、春の 3 時点で取得した回答を扱います。調査は、旧帝早慶層 12 大学の学生・大学院生を対象に、Web アンケート形式で実施しました。なお、本調査はミキワメ就活のサービスを利用している学生に取得しています。

調査名	ミキワメ就活 2027 年卒就職活動実態調査
調査主体	株式会社リーディングマーク 組織心理研究所／ミキワメ就活
調査対象	2027 年卒予定の学生・大学院生
対象大学	東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、東北大学、名古屋大学、九州大学、早稲田大学、慶應義塾大学、一橋大学、東京科学大学、神戸大学
本白書での表記	上記 12 大学の回答者を、便宜上、旧帝早慶層 12 大学と表記します。
回収方法	ミキワメ就活を通じた Web アンケート

調査時点と有効回答数

調査時点	回収期間	有効回答数	男性	女性	文系	理系
夏	2025 年 4 月 19 日 ～2025 年 6 月 23 日	2,055 名	68.5%	31.4%	50.1%	49.2%
秋冬	2025 年 9 月 6 日～ 2025 年 11 月 30 日	2,133 名	69.1%	30.9%	49.6%	49.0%
春	2026 年 1 月 10 日 ～2026 年 3 月 7 日	2,002 名	69.5%	30.5%	55.5%	43.3%

集計上の注意：構成比は各設問の有効回答者数を分母として算出します。複数回答の設問では、選択率の合計が 100%を超える場合があります。文理構成は、各時点の回答者属性に基づく参考値です。

対象大学と3時点の位置づけ

対象は、旧帝7大学、早稲田大学、慶應義塾大学、一橋大学、東京科学大学、神戸大学の12大学に所属する学生・大学院生です。本白書では、大学別の人気ランキングを扱うのではなく、回答者構成を理解するための前提として対象大学を示します。

区分	大学名
旧帝7大学	東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、東北大学、名古屋大学、九州大学
早慶	早稲田大学、慶應義塾大学
その他対象校	一橋大学、東京科学大学、神戸大学

各時点はどう読むか

時点	採用市場上の位置づけ	白書で見る主な論点
夏	比較検討と志望形成が動き始める時点	就活開始時期、夏インターン応募理由、初期の候補形成、企業選択基準の入口。
秋冬	候補群の整理と選考接点が増える時点	候補 Top20、Top5、No.1 の見通し、価値観や期待条件の具体化。
春	本選考、内定取得、未内定状態が同時に見える時点	最終候補化、第一志望化、内定状況、探索継続層、検討業界と志望業界の違い。

時点比較の前提：調査時点の違いは、就職活動の進行を読むための重要な手がかりです。ただし、反復横断調査であるため、個人の変化ではなく、各時点の回答者集団の傾向として読みます。

調査項目の全体マップ

本調査は、学生の就職活動を、活動開始、企業との接点、志望形成、価値観、希望条件、業界検討の複数側面から捉えています。調査項目の全体像を本編で示し、設問群や指標定義の詳細は付録で整理します。

領域	主な調査項目	本白書での使い方
回答者属性	所属大学、専攻、文理区分、性別など	誰の回答をもとにした白書かを示し、3時点比較の前提を確認する。
就職活動の進行	就活開始時期、夏インターン応募理由、内定取得状況、現時点の内定社数	学生がいつ動き始め、どの段階にいるかを見る。
企業認知と志望形成	企業認知、就職先としての検討、志望企業群 Top20、第一志望企業群 Top5、第一志望 No.1	広い候補群から第一志望に近づく過程を、段階的に読む。
価値観・希望条件	キャリアゴール、30歳時期期待年収、企業選択基準 40項目	学生がどのような働き方を望み、企業を見る際に何を重視しているかを読む。
業界関連	検討業界、志望業界、検討から志望への残りやすさ	広く見られる業界と、上位候補に残る業界を分けて読む。

設問の分け方：本白書では、キャリアゴールは本人が目指す働き方や将来像、企業選択基準は企業を見るときに重視する具体的条件として扱います。

調査項目 1 就職活動の進行と志望形成

就職活動の進行を読むためには、開始時期だけでなく、企業をどの段階の候補として見ているかを分けて捉える必要があります。本白書では、就活開始時期、夏インターン応募理由、内定状況に加え、志望企業群 Top20、Top5、No.1 という三段階の志望形成指標を用います。

項目群	主な設問・指標	読み方
就活開始時期	回答者が就職活動を始めた時期。6月以降開始を遅め開始、9月以降開始を非常に遅め開始と補助的に集計。	活動開始の時期を把握する。ただし、開始時期は学生本人の意欲や資質を直接示すものではありません。
夏インターン応募理由	業界研究、企業研究、職種研究、選考直結・有利、自己理解、社風理解、報酬、スキル獲得など。	夏インターンを、選考機会だけでなく、比較候補形成の入口として読む。
内定状況	初回内定の取得状況、現時点の内定社数など。	春時点でも接点設計が必要な学生がどの程度残るかを見る。
志望企業群 Top20	企業リストから、志望企業群として20社までを選択。	広い候補群として、認知後に比較対象として残っている企業群を見る。
第一志望企業群 Top5	企業リストから、働きたいと考える企業の上位5社を選択。	深い比較に残る上位候補を見る。志望業界の集計にも用いる。
第一志望 No.1	Top5の中から最も働きたい企業を1社選択。	第一志望に近い選好を見る。Top20やTop5とは進行速度が異なる。

志望企業群 Top20、Top5、No.1 を分ける理由

企業が学生に認知されること、広い候補群に入ること、上位候補に残ること、第一志望に近づくことは、同じ意味ではありません。候補に入るための情報と、他社と比較して残るための情報、本命として選ばれるための情報は異なります。

三段階の読み方：本白書では、Top20を広い候補群、Top5を上位候補、No.1を第一志望に近い指標として扱うことで、学生の意思決定の進み方を読んでいます。

調査項目 2 価値観・希望条件・企業選択基準

学生が企業を選ぶ際には、報酬だけ、成長だけ、働きやすさだけを見ているわけではありません。本白書では、キャリアゴール、30歳時期待年収、企業選択基準40項目を分けて測定し、組み合わせて読みます。

項目群	内容	本白書での扱い
キャリアゴール	本人が目指す働き方や将来像。最大3つまで選択。	リーダー・マネージャー、スペシャリスト、ワークライフバランス、公益・社会貢献、雇用・経済的安定、自主性・独立性、挑戦・競争、国際志向、起業家・経営者を扱う。
30歳時期待年収	30歳時点で期待する年収。	1000万円以上を高年収希望層として扱う場面があります。年収期待を単独ではなく、キャリアゴールや企業選択基準と組み合わせて読む。
企業選択基準40項目	企業を見るときに重視する特徴。4領域、各10項目。	報酬と昇進、仕事の特性、人と文化、企業の評判とイメージの4領域に分けて扱う。

企業選択基準40項目の4領域

領域	見る内容	項目例
企業の評判とイメージ	企業や製品・サービスへの評価、社会的責任、倫理性、成長性。	企業の強い社会的責任感／魅力的または面白い製品サービス／市場での成功／良い評判／高い倫理観
仕事の特性	仕事そのものの内容、挑戦性、安定性、勤務地や研修など。	チャレンジ性のある仕事／多様な仕事内容／安定した雇用／海外出張の機会／充実した社内研修
人と文化	職場環境、人間関係、文化、働きやすさ。	友好的な職場環境／仕事と生活の良いバランス／身体的に快適な職場環境／個性を尊重する文化／男女平等を支持する文化
報酬と昇進の機会	給与、福利厚生、昇進、キャリアへの影響。	将来的な高所得の見通し／将来のキャリアへの良い関連性／競争力のある福利厚生／競争力ある基本給／明確な昇進制度

調査項目 3 検討業界と志望業界

業界を見る際には、広く検討されている業界と、上位候補に残る業界を分ける必要があります。本白書では、検討業界、志望業界、検討から志望への残りやすさを区別します。

指標	定義	読み方
検討業界	企業リスト上で、就職先として検討するとチェックした企業を業界に集約したもの。	広い認知や比較候補の広がりを見る指標。広く見られているが、必ずしも上位候補に残るとは限らない。
志望業界	第一志望企業群 Top5 に選択した企業が所属する業界を、回答者ごとに集計したもの。	上位候補に残った業界を見る指標。BigSurvey 商品上の志望業界に近いロジック。
残りやすさ	当該業界を検討していた回答者のうち、Top5 にも同じ業界の企業を入れた割合。	検討から上位候補へ残る確率として読む。広く検討される業界と、上位候補に残りやすい業界を分ける。

なぜ企業名ランキングを前面に出さないのか

公開白書の目的は、個別企業の順位を示すことではなく、学生の意思決定の構造を理解することです。業界単位で見ることで、学生がどの市場を広く見ているか、どの市場を上位候補として残しているかを把握できます。

公開範囲：企業別ランキング、自社・競合企業別のファネル、大学別の詳細比較は、本白書ではなく個別分析の領域として切り分けま
す。本白書では、旧帝早慶層 12 大学全体の傾向を扱います。

集計上の注意と公開範囲

公開白書としての信頼性を保つため、本白書では調査の限界と公開範囲を明記します。とくに、3時点比較が同一個人の追跡ではないこと、対象が旧帝早慶層 12 大学の回答者であり、就活生全体の代表標本ではないことを明確にします。

論点	本白書での扱い
反復横断比較	夏、秋冬、春の各時点で得られた回答者集団を比較します。同一個人の変化としては読みません。
代表性	ミキワメ就活を通じて得られた回答に基づくため、日本の就活生全体を統計的に代表する標本ではありません。
複数回答	キャリアゴール、企業選択基準、業界関連などには複数回答項目が含まれます。選択率の合計が 100%を超える場合があります。
本白書で扱うこと	就活開始、志望形成、価値観、期待年収、企業選択基準、検討業界、志望業界の全体傾向。
本白書で扱わないこと	個別企業名ランキング、企業別 Key1・Key2、大学別の詳細ランキング、個別学生の識別、自社・競合別の詳細分析。
個別分析で扱うこと	自社の認知、志望企業群 Top20、Top5、No.1 での位置、競合比較、ターゲット学生の価値観、40 要素で見た認知ギャップなど。